

(別記様式)

平成29年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

計画段階

平成29年4月26日

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様で組織的な教育活動を個に依りて展開する。</p> <p>2 普通科及び工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>1 成果</p> <p>・平成28年度は、一泊研修（1年生）、校外学習（2、3年生）、インターンシップ（2年生）、文化祭、体育祭、研修旅行（2年生）等の学校行事において、積極的・意欲的に参加し大きな成果に結びついた。部活動では前年度に引き続き、ハンドボール部（男・女）や陸上競技部や機械工作部が京都代表として近畿大会や全国大会に出場することができた。また、鉄道研究部においては、熊本大震災で被災した益城町へ訪れ、ミニ鉄道運行を通じて大きな笑顔を届けることができ、地元マスコミにも取り上げられた。</p> <p>3年生の進路状況は、就職については求人数の増加と丁寧な指導により、ほぼ希望通りの内定を得ることができた。大学進学についても、AO入試や推薦入試、一般入試でほぼ希望の進学先に合格することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>・中途退学・転学者数についてはかなり減少させることができた。しかし、入学時の学力を向上させることを目指した教育環境のさらなる充実を図るとともに、生徒の規範意識を育て、本校の経営方針の「人間力の育成」を全教職員の意識共有により、個々の重点目標を具現化することが重要である。</p>	<p>1 原級留置、中途退学、転学等による進路変更の生徒数を更に減少させる。</p> <p>2 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高め、規律正しい学校生活の実現に努める。</p> <p>3 生徒一人ひとりの学習意欲を喚起し、個に応じた指導により学力を伸ばす取組を充実し、確かな学力を育む。</p> <p>4 工業科の学科改編2年目で、既存学科の生徒とともに、工業教育推進の教育体制を一層確立し、学校全体で系統的進路指導の充実を図る。</p> <p>5 「人間力の育成」に係る大きな側面である部活動、特別活動、自主活動をより一層推進する。</p> <p>6 本校教育活動において保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p> <p>7 特別支援教育に係る文部科学省の研究指定校として、教職員全体で生徒の自立に向けた研究を推進して実践する。</p> <p>8 上記の7項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図るため、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し、円滑に実施する。				
		生徒向けの授業評価アンケートを改訂・実施し、授業改善に役立てる。				
		公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。				
		新様式シラバスを全教科作成し、計画的な学習指導に資する。				
		成績不振生徒の状況を常に把握するとともに、教務部として適宜面談にも加わり早期改善を図る。				
生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導を充実する	身だしなみの指導等において全教職員が一致した指導を実施する				
		生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する				
		問題行動の未然防止を図るため、各分掌、教科と連携する				
	自主性、自発性を育成する	田辺高校祭を成功させる				
		部活動を活性化させる				
		生徒会・ボランティア活動を活性化させる				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路指導	希望進路の実現	生徒一人ひとりの学習意欲を喚起するとともに、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。				
		自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業訪問を実施し就職指導の充実を図る。				
		系統的な進路指導となるよう、指導の内容について見直すべきものは改善・整理していく。				
人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度の育成を通して、人間力の充実を図る	生徒の学習の深化と定着を目的に、外部講師による講演を実施する。 今年度より施行された障害者差別解消法に関する学習内容の取組みを行う。				
工業教育の充実と発展	・学科改編完成年度を迎え、学科間の調整を行う。また、専門科目の学習内容の充実を図ると同時に、各種資格等の取得率向上を目指す	・具体的な教育内容精査、より効果的な実施方法、指導者側の有用な指導体制等について検討を進める。 ・資格取得や検定の合格に向け、講習会等のより効果的な指導方法を検討するとともに、計画的に実施する。また、各種競技会にむけた指導の充実とその体制を整備する。				
	・大学や企業などにおける、実際の技術・研究に触れる機会を企画する	・大学や企業の見学会及びインターンシップなどを企画・立案・実施する。 ・外部技術者による講演や実技指導等を計画的に実施する。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
家庭・地域社会との連携	中高連携と広報活動を充実する	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や施設見学等を再編し実施する。				
	ネットワークの運営・管理をする	ホームページをより有効に活用できる体制を整え、多様な生徒の活動を学校内外に紹介する				
学校関係者 評価委員会 による評価						
次年度に向けた改善の方向性						

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった）  
C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）  
D：達成できていない（成果がなかった）